



一致団結！！体育祭を開催しました！

6月1日（金）、前日までの大雨にはハラハラさせられましたが、当日は爽やかな晴天となり、グラウンド整備に時間がかかったものの、無事に開催することができました。

例年通りの応援合戦や団対抗リレーに加え、教師集団との対抗リレーも復活し、大いに盛り上がりました。今年の新たな取り組みとして、生徒オリジナルの図柄が入ったTシャツを全員で揃え、ますます一体感が生まれました。さらに障害物リレーでは、来賓・PTA席に向かってのジェスチャーゲームが導入され、お越しいただいた皆さんに答えていただき、生徒だけでなく会場にいる方々とも一体となり、感動



小学生 VS 高校生(๖)!!

を共有することができました。また、恒例の能勢小学校4年生との交流は、しっぽとりと綱引きで競技に参加してもらいました。高校生のパワーにも負けないくらいのがんばりで、会場を沸かせてくれました。

みなさまの応援のおかげで、素晴らしい体育祭になりました。ご声援ありがとうございました！

マレーシアより留学生が来ました！

6月18日（月）より2週間、マレーシアから短期留学生が来ました。イマン・スフィアン、16歳です。クアラルンプール近くのプトラジャヤという町に住んでいます。小さい頃に横浜に住んでいたことがあるため、日本語を上手に話します。母国語のマレー語、英語、アラビア語も話せます。趣味は写真を撮ること、ランニングで、週末には自転車で市内を散策するのも好きで、よく出かけます。日本の人々にはおもてなしの心があり、素晴らしい場所がたくさんあるので、日本が大好きです。高校では1年2組のクラスに入り、スーパーグローバルの授業にも2年生と一緒に参加しました。放課後には空手部や書道部に入ってクラブ活動も楽しんでいました。



イマンからのメッセージが届いています 2週間という短い間でしたが、能勢での時間はとても楽しかったです。親切な友達や先生方はいつもサポートしてくれ、あいさつをするたびに笑顔で返してくれました。この貴重な経験を忘れることはありません。また能勢に来ます。ありがとうございました！



～能勢小中学校の英語活動にも参加！～

6月20日（水）には能勢中学校で、6月26日（火）には能勢小学校で、英語活動にも参加しました。イマンからマレーシアについてのプレゼンテーションがあり、その後お互いに自己紹介をしました。最初は緊張していましたが、打ち解けると自分から英語で話しかける姿も見られました。日頃の英語活動の成果を発揮し、国際交流を楽しんでいました。

能勢中学校でSGHのプレゼンテーションを行いました

6月19日（火）に3年SG重点分野受講生徒が、能勢中学校で開かれた進路説明会において、中学3年生の保護者の前で、昨年度のSGH 課題研究『オイルパームプランテーションと熱帯雨林伐採』のプレゼンテーションを行いました。日頃の活動を中学校の保護者の方に知ってもらい、グローバルな課題を身近に考えてもらえるようにと、内容にも工夫を凝らしました。

吉川中学校で出前授業を行いました



7月4日（水）に農業科の永井先生、内匠先生、英語科の富樫先生、市橋先生が、農業とSGHの出前授業を行いました。農業では本校農場の紹介や農業（野菜・果樹）の模擬授業を行いました。SGHでは、SGHとは何か、からはじまり、「世界が100人の村だったら」、など、楽しくわかりやすい授業を行いました。中学生にとっては、高校での授業の雰囲気を感じることができる良い機会となりました。

SGH(スーパーグローバルハイスクール)

▶ 3年SG 基礎知識講座

6月7日（木）「インプロ」 講師：月田有香さん

「インプロ」とは即興劇のことです。月田さんはインプロを通して自己啓発力を高める様々な活動を展開しています。3年生全員が9班に分かれ、それぞれ与えられたお題で即興劇を披露するワークショップを行いました。与えられた課題を理解し、考え発表する力、表現力、感情力、コミュニケーション力を養いました。3年生にとっては、これから社会で必要な力を学ぶことができました。



▶ 2年SG基礎知識講座

7月4日(水) 「マレーシアの歴史と文化、パームオイルとボルネオの環境保全活動」

講師：小辻昌平さん サラヤ(株)CSR推進部長

サラヤが作る、人と地球にやさしい「ヤシノミ洗剤」の原材料は、パームオイルという、世界で最も使われている油です。生産国であるマレーシアで、そのために起こる環境破壊をサラヤがどう守っていくかといった、利益を追求するだけではない、企業理念を聞くことができました。



▶ 1年GS課題探求基礎講座

6月25日(月) 「ビジネスプラングランプリ」

講師：比留間大輔さん 日本政策金融公庫大阪創業支援センター所長

9月に行われる「ビジネスプラングランプリ」のエントリーに向けて、ビジネスプランを考える上でのノウハウを学びました。高校生ならではの発想力で、社会に一石を投じるユニークなプランを考えます。

▶ 2年SG重点分野講座

6月12日(火) 「Save the Children Japan セーブ・ザ・チルドレン(SCJ)の活動」

講師：伊藤愛さん Save the Children Japan(SCJ) 大阪



Save the Childrenはイギリスで約100年前にスタートし、現在約120ヶ国で子ども支援・救済活動を展開しています。モンゴルは、子どもの人口が総人口の3割を占めており、また、国民の3割が1日3ドル以下で生活する貧困層です。SCJは学校に通うのが困難な遊牧民の子ども達の学習教材の支援や、親元を離れて寮生活をする子ども達の心のケアなどをおこなっています。最後に伊藤さんは、①それぞれの立場で協力していくこと②伝えることが大切であり、そのために、まずは関心を持ってもらうこと、この2点を強調されました。私達も

できることから何かをはじめられたらと思います

6月21日(木) 「能勢町の地域福祉を取り巻く環境～地域共生社会の実現に向けて～」

講師：能勢町健康福祉部福祉課職員：大植さん・菊池さん・花咲さん



能勢町健康福祉部福祉課より3名の職員の方に来ていただき、『能勢町の地域福祉を取り巻く環境』をテーマに、能勢町の福祉の現状について話していただきました。能勢町では急速な高齢化、人口減少、地域コミュニティの弱体化、家庭教育力の低下が問題となっています。大切なのは人と人とのつながり、互いに支えあうこと、「地域共生社会の実現」が大切だと学びました。



6月19日(火)、28日(木) 7月17日(火)

「綿から布へ①、②、③」

講師：松岡 菜梨花さん「けせら工房 わたんぼ」主宰

松岡さんは、自然農法の綿と出会い、能勢に移り住んで「衣」の材料となる綿の栽培を始め、綿から糸を紡ぎ生地にする工房を主宰しています。松岡さんの指導で、糸紡ぎから染色、布織り、そして製品作りまでを体験する「けせら工房 わたんぼ」の講演とワークショップを行いました。第1回は、糸を紡ぐための道具を制作し、それを使って糸を紡ぐ練習をし、第2回は、紡いだ糸を草木染めで染色しました。第3回は、その染色した糸でミサンガを作りました。私たちの身の回りのものを、自然の資材そのもので自分の手で作れることを学ぶ、貴重な経験となりました。モンゴルでの実態調査でも披露します。

● 校外活動 ●

6月30日(土) 「ガザ報告」 講師：佐藤真史さん

エスペーロ能勢にて行われた講演会をSGH講座生が聴講しました。佐藤さんは国境なき医師団(MSF)の看護師として2018年5月5日から約1ヶ月間パレスチナのガザ地区で活動しました。今、ガザで何が起きているのか、ニュースからではわからない、医療現場からのリアルなパレスチナとイスラムの現状を聞くことができました。

7月24日(火) 公立鳥取環境大学 英語村へ出かけます!

2年SG重点分野講座受講生徒15名と、1年GS課題探求重点講座受講生徒13名が、公立鳥取環境大学英語村にて、外国人スタッフとオールイングリッシュで自己紹介やチャット(簡単な会話)、ゲームなどを行います。午後からは大学教授のゼミにて、2年生は8月のモンゴル・鳥取の実態調査に向けてのプレゼンテーションを、1年生はビジネスプランコンテストの内容を発表し、ご指導いただきます。

モンゴル・鳥取へ実態調査に行ってきます!!

8月4日(土)～10日(金)の7日間、2年SG重点分野講座受講生徒8名がモンゴルで海外実態調査を行います。今年度の研究テーマ、『貧困とストリートチルドレン』について、ウランバートルにあるジェンダーセンターやNGO、モンゴル政府機関で調査を行い、ラジブ・ガンジー生産芸術カレッジでは能勢町と研究について、英語プレゼンテーションを行います。また、8月20日(月)～23日(木)の4日間、2年SG重点分野講座受講生徒6名は、鳥取で国内実態調査を行います。鳥取県にて一村一品、地産地消、環境保全による地域活性化などを調査し、公立鳥取環境大学にてプレゼンテーションやワークショップを行う予定です。この貴重な経験を無駄にすることがないように、しっかりと自分達の手で見て学んでいきたいです。

